

小牧ホープチャペルは、2012年から5年間の伝道支援計画の下、不破勝美師が派遣されて今年で3年目になります。2017年の教会自立をめざして、賛美礼拝、英会話教室とCS（マーク・ケイン協力宣教師）、月2回の「みんなで歌おう」の集い等伝道に励んでおられる伝道所です。

8月24日のキャラバン伝道には、当初5名の申込みがありましたが、キャンセルがあり結局3名の兄弟方（石橋）の参加でした。当日は、朝7時に集合し宇田靖彦兄の車で大阪を出発しました。10時15分からの小牧ホープチャペルの伝道礼拝は、井上兄のギターを弾きながらの賛美リードに始まりました。出席者は17名。不破師はヨハネ3章から、キリストを信じることによる救い（新生）について熱く語られました。伝道チームの大谷正身兄は、東日本大震災と福音宣教の在り方について、相手の方に寄り添うことの大切さを証しされました。暖かい昼食と交わりの後、教会員と伝道チームの6名で近くのニュータウン桃花台へ教会案内とティッシュの戸別配布に出掛けました。行く途中で、大谷兄から小牧の開拓伝道当初、恵みの丘教会からステーブ・フリーゼン師を励ましに来た思い出話が出、同団地の井上兄と話に花が咲きました。一日だけの小牧滞在でしたが、小牧ホープチャペルは今、不破師ご夫妻を中心に教会を建て上げて行こうという教会員の方々の心意気を感じることができました。戸別配布終了後、車で帰阪の途中、折しも台風の大雨に遭遇しましたが、無事守られ帰ることができ感謝しました。これからも、小牧ホープチャペルのため、祈りと支援をお願いします。



小牧ホープチャペルの皆様とキャラバン隊一同



## 告知板

### ☆MB教団宣教65周年記念大会

テ-マ「それぞれの変革」さあ、漕ぎ出そう！！ ルカ5：4

☆日程：2015年4月29日（祝日）開演時間：10時30分～16時

☆場所：池田市民文化会館（アゼリア大ホール）

### ☆伝道委員会の分科会は

「個人伝道トレーニング」について講師：原康平師（大阪CCC）をお迎えします。

### \*編集後記\*

★記事が多くて写真が小さくなってしまいました。少し見にくくなってしまい申し訳ありません。

★皆様のご意見ご感想をお待ちしております。

発行：日本メノナイトブレザレン教団 伝道委員会

〒563-0038 大阪府池田市荘園2丁目1-12 TEL:072-762-5731

発行者：田畑雅紀(伝道委員長) 編集者：河野和雄(広報担当)

# MB伝道ニュース



## 開拓伝道のビジョンを語る【I】



田畑雅紀師：伝道委員会委員長

伝道委員会の役割は既成教会と開拓伝道所を併せた教団全体の伝道を活性化することですので、両者のバランスを取りながら進めていく必要があります。しかし、今回は特に開拓伝道のビジョンについてみなさんと分かち合いたいと願っています。この4年で、豊田東、いずみ、広島西が自立をし、現在は教団の開拓伝道所は小牧ホープチャペルのみです。小牧も2017年の自立を目指しています。2004年に教団の第三次伝道10カ年計画が終了し、その後の大きな柱となる伝道計画が立てられていないまま現在に至っています。その背景には、諸教会が教団としての開拓伝道に力を入れるよりも、既成の教会が力を付けることを優先したい思いがありました。伝道委員会も礼拝出席人数50名以下の教会を優先して教会養成費の経済支援、25名以下の教会への特別伝道費としての支援を行ってきました。しかし、現状は教団としての教勢は右肩下がりで、支援を必要とする教会は増えていますが、教団の全体の予算は減少し、支援の予算も削減せざるを得ない悪循環に陥っています。これを教会レベルで考えますと、教会の現状を維持することに力を割かれ、伝道のために外に出て行くことができなくなっている状況と同じです。教会は外に出て行って救われるべき新しい魂を求めていかなければ、自然衰退していくことは誰もが理解することです。それは単に新しい人が与えられないという現象面だけでなく、新しい人の魂の救いという救霊の思いへの情熱を失っていくことが最も大きな問題です。黙示録2章には、7つの教会に書き送った一つであるエペソの教会への神からのメッセージが記されています。エペソの教会はパウロが去った後も、多くの試練の中を忍耐をもって乗り越えてきました。しかし、今は「初めの愛から離れてしまっている」（黙示録2：4）と戒められています。この状況を解決するためには「どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行い」（黙示録2：5a）に立ち返ることでした。そのことに気づいて方向転換をしなければ「あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう」（黙示録2：5b）と厳しいことばを突きつけられています。教団の開拓伝道に対する現状に、このみことばを直接適用できるかどうかは吟味する必要がありますが、ここから教えられ励まされることは多くあります。教団が既成教会という内側だけに目を向けていると新しいことを始めるといふ思いが薄れてきます。教団が犠牲を払って救霊のビジョンを掲げて進んでいかなければ私たちの救霊の思いは冷めていきます。教団が結果を恐れずに開拓伝道に進んで行かなければ神が備えられている喜びが得られないだけでなく、神が私たちに託そうとしている宣教の門さえも閉ざされてしまうかも知れません。

伝道委員会では、すぐに何かを始めることができる状況ではありません。今年1年をかけて開拓伝道へのビジョンをみなさんと共有して行きたいと思っています。色々な機会に伝道委員会以外の方々のビジョンも取り上げて発信していく予定です。是非ともみなさんとの一致をもって教団の福音宣教を進めていくことを願っています。

## いづみホープチャペル宣教レポート(その1) [パラダイムシフトの種]

田畑雅紀師：伝道委員会委員長

いづみの宣教が大きく変換したのは、2007年の新会堂建設以降です。1998年の開拓伝道開始以降は、自然と牧師を中心とした伝道に焦点が当たっていました。それが、会堂が与えられてから、神様の導きで教会に変化をする多くの機会が与えられました。2008年の夏に、知り合いの牧師から「2週間後に10名の韓国からの短期宣教チームを受け入れてくれる教会を探している」との連絡がありました。当初受け入れを予定していた教会がキャンセルをしたので、急ぎ探していた状況でした。私たちは受け入れの準備も十分にできる状況ではありませんでしたが、神様に与えられた会堂を是非用いたいという思いで、受け入れをさせていただきました。最初は20名ほどの教会メンバーでどのように関わっていけば良いのかも分からず、彼らの活動を遠巻きで見ていた状況でした。しかし、彼らによって教会に青年たちが多く集められ、言葉の障害があるにも関わらず、献身的に仕え、福音を積極的に語る姿を見て、自分たちも青年伝道のために何かをしたいという思いが起こされました。牧師中心の宣教の姿から、救われて間もない青年たちが自ら宣教する姿を見て、宣教は自分たちがするものであるという価値観の変化(パラダイムシフト)の種が蒔かれたのだと思います。黙示録3章のフィラデルフィヤに送られた手紙には「誰も閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた」(3:8)とあるように、宣教の門を開くのは神ご自身です。しかし、その開かれた門を開き続けてもらうためには、私たちが忠実に仕えることが求められるのでしょう。



韓国宣教チーム  
と青年の交わり



## MB ミッション長期宣教師候補来日決定 !!

服部 尚師：伝道委員会副委員長/JMS 委員

今年4月までに来日を願っておられるコーリー・ギースブレクト宣教師を皆さんにご紹介します。ご夫妻は日本宣教の導きを求めてこの2月に来日され牧師会で交わりを持たれました。13教会が招聘希望を出される中で祈りを重ねられ、石橋教会での宣教活動に導かれました。奥さまの正美姉は神戸出身で、お子様はジョシュア君(8歳)、ノア君(6歳)、ソラ君(4歳)の3人です。現在サポートは十分与えられていませんが(約束献金は80%)、不足分は自分の仕事でカバーすることになって来日される新しいタイプの宣教師です。お祈りください。MBミッションからは他にも長期宣教師として尼崎教会のドリス・ガーツ宣教師と豊田東教会のウェンディー・エロス英会話宣教師、また、短期英会話教師としてローガン&ハイディ・フォース宣教師がOBCでご奉仕くださっています。さらに多くの宣教師が起こされますように。



コーリー・ギースブレクト宣教師家族 ドリス師、ウェンディー師、ローガン&ハイディ・フォース宣教師

## 特別伝道活動支援金の活用事例報告

河野和雄兄：伝道委員会委員

伝道委員会では2012年より特別伝道活動支援金制度を設けて礼拝出席人数25名以下の小規模教会の伝道活動支援を行ってまいりました。和合・千里・泉北各教会が2014年度は利用されましたのでその活動内容を泉北キリスト教会の例からご紹介をしたいと思います。

泉北キリスト教会では毎年クリスマスコンサートを開催して地域の伝道活動の一環として、教会を離れている方へ、家族への伝道の為、求道者の決心を促すために用いております。2014年は「クリスマスアドベントコンサート」として地中海ソプラノ歌手工藤篤子さん・ピアニストは野田常喜さんを招いて開催されました。人物紹介は別の機会として省略させて頂き、プログラムの内容をご紹介します。「久しく待ちにし」～「オー・ホーリー・ナイト!」迄、全9曲と途中には工藤篤子さんの生い立ちや神様の素晴らしい恵みの証詞や曲の紹介など、そして野田常喜さんのピアノソロ「オール・マイ・ラブ」(LARI GOSS)や最後には全員で賛美歌109番の大合唱で終わり、参加者は83名と大勢の方々が一足早いクリスマスをお祝いしました。このコンサートの為に、ゲストの謝礼、交通費、チラシ印刷・配布、宣伝広告代として特別伝道活動支援金が活用されました。

(尚、2015年度は予算編成変更の為、教会養成費のみとなります)



チラシ



コンサート風景

## 小牧ホープチャペルのクリスマス(2014)

井上魏洋兄：小牧ホープチャペル

スタートはクリスマスリース作りでした。リース用の材料は近くの公園や野山で松かさ、どんぐり、葛のつる、氷室杉、ローリエなどを集めました。参加者の都合から3日間開催し、延べで38名が教会に集いました。さらにMB藤ヶ丘への出前講習もありました。次は英会話教師のマーク先生夫妻を中心とした子供のための「English Fun Fun Christmas」です。クリスマスの話や賛美、ペーパークラフトやクッキー作りなど、16名の子供たちと大いに盛り上がりしました。例年、未信者の参加が少ないクリスマス礼拝と祝会ですが、今年は新しい試みに挑戦しました。特に30名ほど集っている英会話クラスの参加を促すため、マーク先生の指導の下、クラスごとに準備しました。賛美あり、聖書朗読あり、ハンドベルなど多彩で、半数以上の参加がありました。また、月に2回開催している「みんなで歌おう」の人たちも数名参加いただき、祝会は38名となりました。昼食はポトラックで味、量とも申し分のないものでした。24日の夜はキャンドルを灯し、静かなイブ礼拝を送りました。小さい群れではありますが、愛兄弟の祈りと支援に感謝し、自立に向け歩んでまいります。

